|  |  |
| --- | --- |
| 第４学年　指導者　（　　　）（　　　）（　　　） | |
| 教科「総合的な学習の時間（国語・社会・合科カリキュラム）」  21時間  単元名　「矢口小紋で地域を飾ろう」 | 場所：４年各教室 |

１　単元の目標

　・ 自分たちの住む地域を知り、地域の活性化に携わる人々の思いや願いに気付き、地域に貢献したいという思いをもつ。

　・自分たちで創作した矢口小紋をよりよい物にするために試行錯誤を繰り返し、探究的な学習を通して問題解決を図る力を身に付ける。

２　評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| 1. 地域の人たちの思いや願いを知り、自分たちの力で地域に貢献する方法を考える。 2. 調査活動や情報収集の手順を身に付け、必要に応じて活用することができる。 3. 探究的な学習を通して、自分たちの生活が地域とつながっていることを理解する。 | 1. 自分の関心から、地域をよりよくする「課題」を設定し、解決方法を考えることができる。 2. 目的に応じて自分たちに必要な情報を集めることができる。 3. 学習を重ねる中で、課題解決に必要なことや事象を整理し、比較検討や新たな解決方法を考えている。 4. 伝える相手に分かりやすく情報をまとめ、表現することができる。 | 1. 課題解決に向けて、目的意識をもって意欲的に取り組もうとしている。 2. 課題解決に向けて、力を合わせて探究活動をしようとしている。 3. 自分と地域とのつながりに気付き、地域の活動に参加しようとしている。 4. 学習したことをふりかえり、地域や生活に生かそうとしている。 |

３　単元について

（１）指導内容

　地域活性化に向け、探究的な学習を通して、児童の生活圏である商店街と関わり、多面的に問題を追究する方法を身に付ける。どのようにしたら商店街の人々に喜んでもらえるか、役に立てるかを考え、活動することを通して、主体的・協働的に問題を解決しようとする態度を育てるとともに、自分の生活に生かしたり、これからの自分の生き方を考えたりすることができるようにする。

（２）創造的な資質・能力の素地を重点的に育成する単元として設定した理由

３年生では、地域の商店街には様々な店があり、それぞれの店が創意工夫をしながら集客をしていることを学習している。また４年生では、国語「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」社会「きょう土の伝統文化と先人のはたらき」「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」を学習し、新宿区にある「東京染めものがたり博物館」にて染小紋糊付けを体験し、その中で「自分たちでも伝統工芸に近いものを作りたい」「何かできることはないか」と意欲を高めてきた。今の５年生が４年生の時、商店街の活性化という視点で小紋づくりに挑戦したため、後輩である自分たちも商店街活性化に、自分たちもやって少しでも役に立ちたいという意欲をもっている。

学校近隣の矢口の地域、矢口商店街や安方商店街を学習対象に設定することによって、実際に足を運び、直接対象と関わりながら、地域の特色、地域の活性化に力を注ぐ人々の思い、よりよい街づくりに向けた活動や取組などに触れ、自分たちが学習したことを生かす活動は５，６年生での教科「おおた未来づくり」への素地をつくると考えた。

４　児童の実態

本校は２つの商店街の近くに位置し、商店街を歩いて登下校する児童も多い。また、日常生活でも商店街を利用する児童が多く、商店街は身近な存在である。1学期の総合的な学習の時間では「考えよう、地球にやさしい生活」という活動を通して、ゴーヤを育てたり、環境に関することを調べたりしてきた。グループ活動でスライドにまとめて発表する体験を通して、探究する活動の楽しさを味わってきた。また、各教科で学習したこと、これまで経験してきたことを生かそうとする姿勢もある。協働する活動、探究活動も好んでおり、授業外の時間を使って意欲的に取り組む児童も多い。一方で、自分で課題を設定すること、追究することが苦手な児童もいる。学級内の学力差も大きい。全体的に素直で言われたことは何でもやってみようとするが、深まりや試行錯誤の仕方に課題があるので、時間を十分に確保したり、交流の仕方を工夫したりして手立てを与えながらより深い活動となるように指導していきたい。

５　創造的な資質・能力の素地を育成する視点

　　自分たちで矢口小紋を創作する活動を通し、ものづくりや地域の創生において必要な知識及び技能を身に付けることができるようにする。

６　創造的な資質・能力の素地を育成するための手立て

（１）問題解決の見通し、学習ストーリー、ゴールイメージをもたせることに関して

　「これから学ぶ授業がどのように進んでいくのか」という授業ストーリー展開を必要なタイミングで児童に知らせたり一緒に作成したりすることで、問題解決の見通しをもちやすくなると考える。また授業には「学習問題」があること、その学習問題を解決することが学習の目的であることを意識化させていくことで、学習の目的達成のために、何に着目し、どう調べ考え学んでいけばよいかの見通しをもたせたい。

児童の疑問がみんなで解決していく「学習問題」となり、学習問題の意味を自分なりに把握する。そして予想を出し合い見通しをもち、力を合わせて調べたり、考えたりするストーリーを一緒に考えることで自分の「学ぶべきこと」「考えるべきこと」を知ることができ、より主体的に学習に取り組むことができると考えた。

（２）交流の仕方の工夫に関して

　　個々に考えや意見はもっているものの、全体の前で話すことに抵抗を感じている児童が存在している。少人数の場を設定すると緊張感や抵抗感が和らぎ、話合いの活発化が期待できる。そのため今回は、メンバーの組合せを変えながら、３人単位の小グループでテーマに沿った話合いを繰り返す場を設けた。一定時間でメンバーを交代することで、他の意見をもった新たなメンバーを介して、多くの人の意見が集まることが期待できる。また、相手の意見に自然と耳を傾けられ、自分の意見も尊重されるような効果が得られる。商店街の方々に喜んでもらえることを意識しながらものづくりをすすめることで、高学年で学習する地域の創生に向けた素地づくりに取り組みたい。

（３）ICT等の活用

　　　・Googleスライド（プレゼンテーション、デザイン編集調整）

・ムーブノート（情報交流）

・スキャナー（手書きデザイン取り込み）

・ピクチャーキッズforまなびポケット（デザイン加工、調整）

・シルクスクリーン制作機「Tシャツくん」

（４）カリキュラム・マネジメント

国語「世界にほこる和紙」「伝統工芸のよさを伝えよう」、社会「きょう土の伝統文化と先人のはたらき」「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習を組み立てた。

　国語「伝統工芸のよさを伝えよう」（「世界にほこる和紙」の継続単元）では、学習のゴールである「伝統工芸のよさを（リーフレットで）伝えよう」を意識し、児童自身が伝統工芸について分かりやすく伝えるという明確な目的をもって、必要な情報を読み取り、表現することができる単元である。また、筆者がどのように伝統工芸のよさを広めようとしているかという、主体的に学習に取り組む態度に迫る事例として学ぶことができる単元でもある。

社会科「きょう土の伝統文化と先人のはたらき」、「東京都の特色ある地いき～新宿区でさかんな東京そめ小もん」では、新宿区の地場産業、伝統工芸である東京染小紋を、人々が協力し守ってきたことや特色ある街づくりを通した産業の発展に努めていることを学習する。また、この学習を通して伝統工芸品が多く残る東京都に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養うこともねらいである。

この２つの教科で学習する単元を、総合的な学習の時間と関連させて、同時並行に学習することで、様々な面から伝統工芸やそれを取り巻く環境、支えている人々の理解が深まると考え、これらの学習の延長線上に本単元を位置付けることとした。

７　指導計画（全21時間　総合的な学習の時間：17時間、国語３時間、社会１時間）

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 学  習  過  程 | 時 | 〇主な学習活動　▶教科  ★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて | | ◆評価規準【観点】（方法） | |
| 課  題  の  設  定 | １ | ○東京染ものがたり博物館（新宿区）で「東京染小紋体験学習」を行う。  ▶社会科体験学習（以下：社） | | ◆【主】①  （体験活動の様子・振り返り）  ◆社会【主】東京染小紋について関心をもって考えようとしている。 | |
| ２ | ○昨年度の４年生の取組を知り、今年度の学習問題をつくり、ゴールイメージをもつ。  ▶総合的な学習の時間（以下：総） | | ◆【主】① （発言・ワークシート） | |
| ３ | ○矢口小紋の模様を試作し、小紋作りの練習をする。  ・矢口小に飾る小紋のデザインを考える。  ・矢口小紋の模様をICT活用と手描きを併用し、簡単な模様を描く。  ★ICTを活用し、デザインの作成の方法を知る。  ▶総 | | ◆【知】②（作品） | |
|  | ４ | ○個人で試作したデザインをグループで検討し、グループデザイン案を試作する。  ▶総 | | ◆【思】④（作品） | |
| ５ | ○考えたデザインのアイデアについて、助言や感想などを交流し合う。  ▶総 | | ◆【思】②③④  （ワークシート・発言） | |
| ６ | ○前時の意見を基に、小紋の模様を再検討する。  ▶総 | | ◆【思】③（作品） | |
| ７ | ○矢口小紋をプリントし、作品を完成させる。  ★シルクスクリーン制作機「Tシャツくん」の活用をする。  ▶総 | | ◆【主】①②（作品） | |
| ８ | ◯「矢口小小紋」作りを振り返り、次の学習課題に向け、ゴールイメージをもつ。  ▶総 | | ◆【主】① （発言・ワークシート） | |
| ９ | ○地域や商店街の様子を「矢口小紋を使って、自分たちの力で地域をどうにぎやかにできるか」という視点で探索し、自分なりの考えをもつ。  ▶総 | | ◆【知】①  ◆【思】①  （ワークシート・発言） | |
| 整  理  ・  分  析 | 10 | ○関心を持った地域の場所ごとにグループに分かれ、デザイン案を考える。  ★互いの特長を生かして作業を分担しながら活動する。▶総 | | ◆【主】③  （ワークシート・発言） | |
| 11　12 | ○個人で試作したデザインをグループで検討し、グループデザイン案を試作する。▶総 | | ◆【思】④（作品） | |
| 13　３組 | ◯矢口小紋を試しにプリントする。  ★シルクスクリーン制作機「Tシャツくん」の活用をする。  ▶総 | | ◆【主】①②（作品） | |
| 14 １組 | ○試作した矢口小紋のアイデアを交流し、助言や感想を交流する。  ▶総 | | ◆【思】④  （ワークシート・発言） | |
| 15 | ○様々な意見をいかし、矢口小紋のデザインがよりよいものになるように、話し合う。  ▶総 | | ◆【思】③（作品） | |
| ま  と  め  ・  表  現 | 16 | ○改善した矢口小紋をプリントし、作品を作る。  ★シルクスクリーン制作機「Ｔシャツくん」の活用。  ▶総 | ◆【主】①②（作品） | |
| 17 | ○製品や展示品としてふさわしい装丁に仕上げる。  ▶総 | ◆【思】④（作品） | |
|  | 18～20本時　２組 | ○「矢口小紋リーフレット」を作り始める。  ★矢口小紋を制作した思いや、その良さなどを取り入れた特色あるリーフレットとなるように児童の考えをファシリテートする。  ▶国語 | ◆【思】②④  （ワークシート・発言・作品）  ◆国語【思】①自分の思いを伝えるために必要な情報を目的や相手に応じて整理することができる。（ワークシート・発言）  ◆国語【思】②自分の考えそれを支える理由を明確にして、書き表し方を工夫することができる。  （ワークシート・作品） | |
|  | 21 | ○今単元で何を学び、どのように成長したかを振り返る。  ▶総 | ◆【主】④（ワークシート）  ◆【知】③（ワークシート） | |

８　本時の指導計画

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ４年３組　（全21時間中の第13時）　授業者：（　　　） | | 場所：４年３組 | |
| 目標：地域のためを意識し矢口小紋を印刷し作品を完成させる。 | | | |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | | ◆評価規準【観点】（方法）  ★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて |
| 導入 | 〇本時学習の見通しをもつ。  ※作品形状はタペストリー等布製品を想定。（本時は版づくり）  　今まで学習した内容を振り返り、本時の活動を確認  地域のためを意識し矢口小紋の作品を完成させよう。 | | ◆【主】①②（作品） |
| 展開 | 〇シルクスクリーン制作機「Tシャツくん」を使ったデザイン（版）を作成する。  ・デザイン通りにできるのかな。  ・Ｔシャツくんの使い方は？  ・制作作業の役割分担が必要かもしれない。  〇展示物となる作品イメージをもち、できあがったデザインについて話し合う。  ・模様の色を変えると印象が良くなるかも。  ・小紋の大きさも変えてみようかな。  ・もっときれいに仕上がる作業はないのかな。 | | ◆【主】①②（作品）  ★グループ別に実施し、できあがりが商店街のイメージや思いなどを取り入れたものになっているのか確認する。 |
| 振り返り | 〇①～③について振り返り次時の見通しをもつ。   1. できあがりデザインは思い通りであったか。 2. デザインに対する自分たちの思いを再確認する。 3. 作品イメージと比較して、完成に向けよりよくしたい点がないかを確認する。 | | ◆【主】①②（作品） |

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| ４年１組　（全21時間中の第14時）　授業者：（　　　） | | 場所：４年１組 |
| 目標：地域や商店街の人々の思いや願いに添って、自分たちが創出したものを再考することができる。 | | |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | ◆評価規準【観点】（方法）  ★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて |
| 導入 | 〇本時の学習の見通しをもつ  学習したことを振り返り、本時の活動について確認する。  考えた矢口小紋について分かりやすく説明をし、友達から助言やアドバイスをもらおう。 |  |
| 展開 | 1. 初めて見た印象をまとめる。   各グループが考えた小紋を、初めて見て思ったことや考えたことなどをグループで話し合い、ワークシートに記録する。  ・どんな理由でこのデザインにしたのかな。  ・商店街の人が喜んでくれそうだね。  ②小紋についての説明を聞く。  ワールドカフェ形式で、それぞれが各グループへ入り、どのような思いや考えで作ったのか説明を聞く。   1. 質問やアドバイスをし合う。   初めて見た印象や説明を聞いて考えたことを伝える。   1. 再考する。   自分たちのグループに戻り、もらったアドバイスを生かして次の活動の見通しをもつ。  ・アドバイスを聞いて「なるほど。」と思ったよ。  ・ここのデザインを少し変えようか。 | ◆【思】④（ワークシート・発言） ★自分たちで考えたデザインが、商店街のイメージや思いなどを取り入れたものになっているのか、ワークシートに矢印などを使い分かりやすく表現できるようにする。 |
| 振り返り | 〇振り返り  本時に取り組む前と取り組んだ後という視点で振り返りを行う。 |  |

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ４年２組　（全21時間中の第18時）　授業者　（　　　） | | 場所：４年２組 | |
| 目標：リーフレット作成のために必要な情報を見出し、作成計画を立てることができる。 | | | |
|  | 〇主な学習活動　・予想される児童の反応 | | ◆評価規準【観点】（方法）  ★創造的な資質・能力の素地を育成するための手だて |
| 導入 | 〇本時の学習の見通しをもつ。  矢口小紋のよさを伝えるリーフレットの作成計画を立てよう。 | |  |
| 展開 | 〇リーフレット作りに必要な工程を話し合う。  ・どんなことを書いたらいいかな。  ・どんな順番で書いたらいいかな。  ・役割分担の時間が必要だね。  〇リーフレットに載せる内容を話し合う。  ・模様を考えた理由を知ってほしい。  ・だれに向けた小紋なのかを説明しよう。  ・小紋の写真が必要だね。  〇グループごとに発表し、共有する。  〇改めて内容を検討する。 | | ◆【思】②（ワークシート・発言）  ★矢口小紋を制作した思いや、その良さなどを取り入れた特色あるリーフレットとなるように児童の考えをファシリテートする。  ◆国語【思】①（ワークシート・発言） |
| 振り返り | 〇本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。 | |  |

７　社会で活躍する人との連携

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 企業名 | 依頼内容 | 資質・能力の育成に期待できる効果 |
| 安方商店街 | 賛同くださる店舗内での掲示 | ・商店街会長から思いを直接聞き地域のための活動の意義を実感する。  商店街へ足を運ぶことにより、相手意識に立った作品制作を経験する。  ・賛同店舗に展示していただくことで児童の地域貢献への達成感を得る。 |